

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月28日

事業所名 ハートピア出雲スマイル

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6名	0名	・利用定員数が固定されている。	
	2 職員の配置数は適切である	4名	3名	・職員の休みが重なるとギリギリの人数になるが、配置の時間を細かく調整することで安全に支援ができるようにしている。 ・1対1または3対2と目の届く人数が配置されている。	・国の規定では配置職員数は足りているが、実際は日常生活動作に介助を要する子供が増えてきているため、安全面に考慮すると今の配置職員数では足りず、加えてパート職員やボランティアを置く。 ・専門の支援やモニタリングには職員が担当する必要があるため、今後もボランティアが担当する児についても連携を十分にいき、統一した支援を図るようにする。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6名	0名	・仕切り、パーテーション、個室等を必要に応じて作ったり、設けたりし、分かりやすくしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6名	0名	・毎日掃除し、ごみ等ないよう消毒も行っている。 ・重心児等がゆっくり過ごせたり、様々な感覚の刺激(光、前庭覚など)が体験できる部屋が常設されている。	・引き続き、清潔、安全に留意し、活動に合わせた空間の使い方や収納を工夫する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5名	1名	・気になったことはその都度話をして改善されていると思う。 ・担当していない子供についても気づいたことは記録するようにしている。	・定期的な支援会議の他、必要に応じてその都度話をし、職員間で共有していく。 ・担当している子どもだけでなく、担当していない子供についても気づいたことは記録し、職員間で連絡相談をする。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6名	0名		・今後も引き続き保護者のニーズに合わせて改善できるように取り組んでいく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6名	0名	・ホームページに掲載中。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0名	5名		・現在は評価機関による第三者による評価は実施していない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6名	0名		
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6名	0名		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4名	2名	・子どもの発達状況等は他機関より情報提供してもらっている。	・標準化されたアセスメントツールは最近あまり使用できていないため、今後は必要に応じて標準化されたアセスメントツールを使用していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3名	1名	・地域支援としてケース会や園への訪問などを行っている。	・本人支援、移行支援の支援内容は設定されているが、家族支援、地域支援の内容はあまり設定されていないため、今後児童発達支援計画変更時に検討していく。

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6名	0名		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6名	0名		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5名	1名	・サーキットはその日の利用児に合わせた内容を考えている。	・引き続きサーキット以外のルールのある遊びや季節の遊びなどを取り入れていく。 ・子どもの特性に応じて固定化する活動と変更を取り入れていく部分を定期的に話し合い工夫していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6名	0名		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2名	3名	・必要なことは引き継ぎ、共有している。	・その日に行う時間確保の難しさや始業時間が同じでないため、引き続き前もって支援会議等で共有できることは行い、その日に必要なことは連絡ノートを使用しながら確認する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3名	3名		・就業時間終了が同じではないため、時間が取れない時もあるが、できる限り打ち合わせや振り返りを行っている。 ・時間が取れない時はその日の利用記録を読みあうことで、情報共有を行う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6名	0名		
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6名	0名	・個別支援計画書は職員2人以上で会議を行い、支援内容の振り返りを行うことで共通理解でき、次の支援に繋がっている。 ・半年に一回実施している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5名	1名		・子どもの状況に精通した担当者同士が情報を共有し、担当者会議に参加しているが、会議等が重なり参加難しい場合は、子どもの情報を確認しあい参加するようにしている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5名	1名	・定期的なものではないが、必要であれば紹介などで連携している。	・紹介等があった時、多少連絡を取り合う程度で、必要性があれば連携を取り合っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6名	0名	・リハでの支援方法などを共有している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6名	0名		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6名	0名	・家族と一緒にサポートブックを作成、申し送りに行くなど支援の継続を支援している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6名	0名	・就学時等に家族と一緒にサポートブックを作成、申し送りに行くなど支援の継続を支援している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名	1名	・支援内容に合わせた研修に参加したり、職場内研修を行っている。	・今後も引き続き、必要に応じて十分な連携を図ったり、関係機関主催の研修会に参加したり、職場内研修を行っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1名	5名		・必要に応じて地域の保育所・幼稚園の公開日や地域行事の情報を提供していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2名	3名	・年数回ある児童の専門部会にはなるべく参加するようにしている。	

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6名	0名		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6名	0名	・年4回程度家族支援プログラムとして心理士による勉強会やペアレントメンターさんによる研修を行っている。	・会の参加者が少ないこともあるため、今後開催日時や内容等を保護者のニーズに合わせて検討していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5名	0名		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6名	0名		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6名	0名		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5名	1名		・保護者にアンケートを実施し、ニーズに合わせて保護者交流の場を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6名	0名		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6名	0名		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6名	0名		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6名	0名		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5名	1名	・もちつき、節分会、避難訓練に地域の方もお誘いしている。	・引き続きお餅つき会などの行事に地域の方を招待していく。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6名	0名	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6名	0名		
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6名	0名		
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6名	0名		
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6名	0名		
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6名	0名		
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5名	0名		